《専門科目》

科目名	教育制度論				
担当者氏名	武内　道郎				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-1 教養 ◎　2-2 知識・技能 ○　4-4 態度・志向性				

《授業の概要》

現代の学校教育に関する社会的、制度的事項について、基礎的な知識を身に付けるとともに、それらに関連する教育課題を理解する。適宜、最新の教育ニュースを話題に出し、現代の教師に課せられた義務、果たすべき責任について、積極的な姿勢を培う。

《授業の到達目標》

①公教育の原理及び理念を説明できる。
②教育法規、日本や海外の教育制度について説明できる。
③就学前教育から高等教育、生涯学習まで、その仕組みを説明できる。
④学校を巡る近年の教育政策の動向について述べることができる。

《成績評価の方法》

定期試験40%、課題レポート60%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

坂野慎二・湯藤定宗編著「学校教育制度概論〔第三版〕」玉川大学出版部　2022

《参考図書》

参考資料としてプリントを使用する。

《授業時間外学習》

・準備学習としてテキストを予め読み、事後学習として専門用語についての理解を深めておく。
・予習、復習（概ね４時間）の自己学習が望ましい。
・課題についてレポートを作成する。
(本授業では60時間の時間外学修が必要です。)

《課題に対するフィードバック等》

毎授業時に実施する課題レポートは、適宜フィードバックする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	公教育の基本原理	学校とは何か、教育の目的と公教育の原理。 ［時間外学習］テキストのP.11～19を読んでおくこと。
2	公教育の基本原理 教育法規	教育法規、日本の教育の現状について。 ［時間外学習］テキストのP.19～26を読んでおくこと。
3	学校教育制度 幼稚園	就学前教育制度の概要、幼稚園について。幼稚園の減少理由(グループ協議）。 ［時間外学習］テキストのP.27～37を読んでおくこと。
4	学校教育制度 保育所・認定こども園	保育所、認定こども園と就学前教育制度の状況。待機児童問題(グループ協議)。 ［時間外学習］テキストのP.38～47を読んでおくこと。
5	学校教育制度 義務教育	義務教育制度、その現状と課題について。就学義務と教育義務(グループ協議)。 ［時間外学習］テキストのP.49～59を読んでおくこと。
6	学校教育制度 特別支援教育	特別支援教育制度及びその国際動向について。 ［時間外学習］テキストのP.59～67を読んでおくこと。
7	教育政策の動向 学習指導要領	学習指導要領、様々な会議について。３つのポリシーについて（調べ学習）。 ［時間外学習］学習指導要領の変遷について調べておくこと。
8	教育政策の動向 国内の教育を巡る動き	国内の教育を巡る動きについて。これから必要な能力について（グループ協議）。 ［時間外学習］高大接続改革、教育振興基本計画について調べておくこと。
9	学校教育制度 高等学校	後期中等教育の概要について。高校進学率の上昇について(グループ協議)。 ［時間外学習］テキストのP.69～73を読んでおくこと。
10	学校教育制度 後期中等教育の多様化	後期中等教育の多様化及びその費用について。高校入試制度(調べ学習)。 ［時間外学習］テキストのP.74～85を読んでおくこと。
11	高等教育と生涯学習 高等教育機関	高等教育機関の種類について。 ［時間外学習］テキストのP.87～93を読んでおくこと。
12	高等教育と生涯学習 高等教育機関の役割	高等教育の社会的役割と生涯学習について。生涯学習の役割(グループ協議)。 ［時間外学習］テキストのP.87～103を読んでおくこと。
13	教育行政制度 文部科学省	国の教育行政制度の基礎、教科用図書について。 ［時間外学習］テキストのP.105～115を読んでおくこと。
14	教育行政制度 国・地方の教育行政	国の教育行政の諸領域、地方教育行政の基礎について。 ［時間外学習］テキストのP.115～131を読んでおくこと。
15	教育行政制度 地方教育行政の役割	地方教育行政の役割と教育財政について。 ［時間外学習］テキストのP.131～140を読んでおくこと。

《専門科目》

科目名	子どもの食と栄養				
担当者氏名	大野　智子、齋藤　亜希子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-1 教養 ◎　2-2 知識・技能 ○　3-3 汎用的技能 ○　4-4 態度・志向性				

《授業の概要》

子どもの健全な発育・発達に欠かせない乳幼児期の適切な栄養摂取の方法や食生活についてを学ぶ。
具体的には、基本的な栄養学の知識を身に付けた上で、子どもの栄養の重要性や発育・発達,成長に応じた栄養の必要性を知る。また、子どもに多い疾患やその際の食事管理や必要な食事の取り方などの基本を理解する。さらに、子どもや保護者に食の大切さを伝える視覚媒体の作成や調理実習も行う。

《授業の到達目標》

栄養素の基本が理解できる。
育児用粉乳の衛生的で安全な取り扱い、正しく調乳できる。
離乳食について理解し、進め方について正しく伝えられる。
乳幼児期の栄養の特性や、年齢に応じた食生活を理解する。
食事のマナーや作法を理解し子どもに正しく伝えられる。
衛生面に配慮し、安全に食育活動をすることができる。
年間行事と行事食を理解し、保育に生かすことができる。

《成績評価の方法》

評価は、授業態度・出席状況（40%）、ノート・課題・レポート・媒体作成（40%）、確認試験（20%）を行い総合的に評価し、60点以上を合格とする。
出されたか課題は、期日までに作成すること。

《テキスト》

・子どもの食と栄養　第２版　保育現場で活かせる食の基本
　編著：太田百合子、堤ちはる　羊土社
・新ビジュアル食品成分表「新訂第二版」大修館書店

《参考図書》

①「食育実践ハンドブック」
　明日の授業で生かせるアイディア70　三省堂
②子育て・子育ちを支援する「子どもの食と栄養」萌文書林
③楽しくわかる「栄養学」　羊土社
④「栄養の基本がわかる図解事典」栄養用語がまるわかり！
　成美堂出版

《授業時間外学習》

ノートは各回ごとに回数、月日を記入し講義・実習内容を見やすく、わかりやすくまとめること。必ず自書で作成する。
あらかじめ示されたページを予習しておくこと。
本授業では、60時間の時間外学習を必要とする。
毎回の授業について、復習を中心に４時間の時間外学習が必要である。

《課題に対するフィードバック等》

実習時は身支度を整え、エプロン・三角巾・名札・指定靴を着用し着席。髪は束ね、爪は短く切り、マニュキユア・つけ爪はせず、装飾品は全て外し、安全面、衛生面に十分注意し臨む。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	子どもの健康と食生活の意義	健康な食生活を知り、望ましい食生活について学ぶ。 子どもの食生活の現状を知り、その課題について理解する。
2	栄養に関する基礎知識①	三大栄養素、五大栄養素について学ぶ。 消化吸収の仕組みを知る。
3	栄養に関する基礎知識②	栄養素の種類と働きについて学ぶ。について理解する。糖質、脂質、たんぱく質、ビタミン、ミネラル、食物繊維、水分の働きを知る。
4	栄養に関する基礎知識③	「日本人の食事摂取基準」、基礎代謝について理解する。アトウォーターエネルギー換算係数、PFC比率、食塩換算係数、ＢＭＩについて理解する。機能性食品について知る
5	献立作成と調理の基本 食中毒予防と衛生管理	食事バランスガイドを使ってバランスの取れた献立作成と調理の基本を知る。盛り付けや切り方などの調理の工夫を理解する。食中毒の原因や予防方法を学ぶ。
6	妊娠期と授乳期の特徴と食生活	妊娠のメカニズムを知り、妊娠期における正しい食生活を理解する。母乳栄養の利点を知り、を使って妊娠期の適正体重を算出できる。
7	乳児期の食生活と栄養（実習）	調乳（無菌操作法・終末殺菌法）を理解し、調乳に必要な器具や備品を衛生面に配慮しながら調乳・洗浄ができる。離乳期の区分を理解し、各期における調理形態を学ぶ。
8	乳児期の食生活と栄養 食育の基本と内容	授乳から離乳食への移行のタイミングや離乳食の役割を理解する。また、離乳食の進め方を理解する。乳幼児期の食育の基本を理解する。
9	幼児期の栄養①（実習）	幼児期に必要な栄養素を知り、バランスの良い食事を作ることができる。正しい食事の姿勢や食具の使い方を知る。年齢に合ったお弁当箱に、安全で衛生的な詰め方を知る。
10	幼児期の栄養②（実習） 間食の意義と目的	子どもにとって、間食（おやつ）の意義と役割、必要性を理解し、望ましい間食（おやつ）の食品や分量などを知る。
11	学童期・思春期の発育・闊達と食生活	この時期は、心と体の成長・発達ばかりでなく、成人期以降の健康状態にも影響することを理解する。学校における食育についても知る。第４次食育推進計画について知る。
12	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	乳幼児期に多い疾病と症状を理解し、疾病に応じたコントロール食や食事の配慮の仕方を理解する。食物アレルギーについて理解し、配慮する点を学ぶ。
13	児童福祉施設における食事と栄養	保育所やその他の児童福祉施設の特徴と食生活の基本を知る。障がいのある子どもの摂食機能と食事指導を理解する。
14	行事と食について （媒体発表）	それぞれのテーマに基づき作成した、行事と食についての媒体を発表する。
15	前回の続き	前回の続き

《専門科目》

科目名	健康領域指導法				
担当者氏名	桐原　由美				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　2-2 知識・技能 ○　4-4 態度・志向性				

《授業の概要》
保育所保育指針、幼稚園教育要領、認定こども園教育・保育要領に則り、子どもが自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養える保育・援助の方法について以下を中心にグループワークや模擬保育、実技を通して実践的に学ぶ。
①遊びを中心とした保育と健康のねらい ②動作の観察と評価
③運動遊びの実践 ④安全管理と安全指導

《授業の到達目標》
①幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育を構想できる。②領域「健康」の特性を考慮した情報機器及び教材の活用ができる。③指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。④模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。⑤領域「健康」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。

《成績評価の方法》
授業における提出課題（30%） 発表（30%） 授業後に提出する小レポート（20%） 最終課題（20%）で評価し、60%以上を合格とする。

《テキスト》
〇吉田伊津美 他編著：保育内容 健康 光生館 2018
〇幼稚園教育要領，保育所保育指針，幼保連携型認定こども園教育・保育要領

《参考図書》
〇池田裕恵編著：子どもの元気を取り戻す保育内容「健康」第二版 杏林書院 2018 〇河邉貴子 他編著：保育内容「健康」ミネルヴァ書房2020 〇岩崎洋子編：保育と幼児期の運動あそび 2018 第二版 萌文書林 2018 〇小櫃智子：幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド わかば社 2017 〇その他、授業の中で適宜紹介する。

《授業時間外学習》
予習として、各回の[準備学習]に示した内容を行い、授業に臨むこと。復習として、授業で学んだことをノートにまとめておくこと（本授業は15時間の授業時間外学習が必要です。したがって、各回において、予習復習合わせて1時間の自主学習を行ってください）。

《課題に対するフィードバック等》
授業後に提出する小レポートは、コメントを付してフィードバックする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保育者の役割	領域「健康」の指導における保育者の役割について考える [準備学習]テキストのP76-P88を事前に読んでおく
2	領域「健康」にかかわる絵本	領域「健康」にかかわる絵本の活用の仕方を考える [準備学習]領域「健康」にかかわる絵本を選んでおく
3	領域「健康」に関する絵本の読み聞かせ	模擬保育①「健康」に関する絵本の読み聞かせ等の実践、相互評価（グループワーク） [準備学習]読み聞かせするにふさわしい絵本を事前に選び、読んでおく
4	反省と改善方法の検討	模擬保育①反省と改善方法の検討（グループワーク） [準備学習]前回の評価をふまえ、どのように改善工夫すべきか考えておく
5	指導案の立案	領域「健康」をテーマとした指導案の作成（グループワーク） [準備学習]「実習パーフェクトガイド」などの参考図書の指導案例を事前に読んでおく
6	指導案に基づく準備	模擬保育に向けての教材研究（グループワーク） [準備学習]テキストの模擬保育に関する箇所を読んでおくこと。加えて、必要な教材を準備しておく
7	指導案に基づく模擬保育と評価（１）食育	食育にかかわる模擬保育（グループワーク） [準備学習]実践者は模擬保育ができるよう準備しておく。受講者はテキストの模擬保育に関する箇所を読んでおく
8	指導案に基づく模擬保育と評価（２）生活習慣	生活習慣にかかわる模擬保育（グループワーク）[準備学習]実践者は模擬保育ができるよう準備しておく。受講者はテキストの模擬保育に関する箇所を読んでおく
9	指導案に基づく模擬保育と評価（３）安全	安全にかかわる模擬保育（グループワーク） [準備学習]実践者は模擬保育ができるよう準備しておく。受講者はテキストの模擬保育に関する箇所を読んでおく
10	指導案に基づく模擬保育と評価（４）健康	健康にかかわる模擬保育（グループワーク） [準備学習]実践者は模擬保育ができるよう準備しておく。受講者はテキストの模擬保育に関する箇所を読んでおく
11	指導案に基づく模擬保育と評価（５）運動遊び	運動遊びにかかわる模擬保育（グループワーク）[準備学習]実践者は模擬保育ができるよう準備しておく。受講者はテキストの模擬保育に関する箇所を読んでおく
12	指導案の評価と改善	模擬保育の評価により見出された課題を検討し指導案を修正（グループワーク） [準備学習]模擬保育を振り返り、評価しておく
13	保育に生かす安全マップ（１）準備	安全マップ作成に向けての準備（グループワーク） [準備学習]テキストやこれまでのノート等の子どもの安全に関わる箇所を事前に読んでおく
14	保育に生かす安全マップ（２）作成	安全マップの作成（グループワーク） [準備学習]安全マップのレイアウトを考えておく
15	保育に生かす安全マップ（３）発表	安全マップの発表（グループワーク） [準備学習]作成した安全マップを紹介できるよう準備しておく

《専門科目》

科目名	環境領域指導法				
担当者氏名	清水　誠				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　2-2 知識・技能 ○　3-3 汎用的技能 ○　4-4 態度・志向性				

《授業の概要》

本授業では、グループワーク、討議・発表を通して、幼児の発達や学びの過程を理解し、幼児が周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていくことができるための指導力を身につけることを目指す。具体的な指導場面を想定した保育を構想する力を身に付けるため、指導計画の作成と模擬保育を行う。加えて、保育者として必要なコミュニケーションスキル、プレゼンテーションスキル等を修得する。

《授業の到達目標》

(1) 幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育構想の重要性を説明できる。
(2) 領域の特性と幼児の体験との関連を考慮した教材及び情報機器の活用法を習得し、保育の構想に活用できる。
(3) 具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。
(4) 保育を改善する視点を身に付け、現代的課題や保育実践の動向を踏まえた保育構想の向上に取り組むことができる。

《成績評価の方法》

全体で100%（総点100点）とし、「定期試験における筆記試験50%」、「発表及びレポート（学習指導案を含む）35%」、「主体的に学習に取り組む態度15%」の各評価の割合で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

・実践例から学びを深める保育内容・領域　環境指導法、小櫃智子編著、わかば社

《参考図書》

・幼稚園教育要領解説　文部科学省、フレーベル館
・保育所保育指針解説　厚生労働省編、フレーベル館
・事例で学ぶ保育内容　領域「環境」新訂　無藤隆監修、紀伊國屋書店
・埼玉県「参考となる学習指導案集」www.pref.saitama.lg.jp/g2204/sidouan-you.html

《授業時間外学習》

・本演習科目では総計15時間の時間外学習が必要とされている。予習・復習として毎回１時間の学修が必要である。
・時間外学習は、授業計画に示した学習内容についてﾃｷｽﾄや文献等を検索し、まとめてくる。
・事後学習として学修を振り返り理解を深めておく。

《課題に対するフィードバック等》

提出されたレポートや学びを振り返る（メタ認知する）ため毎授業で作成した学習履歴表は、コメントを付して翌週以降フィードバックする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	領域「環境」の構想の視点及び指導	環境の学びを構想する視点、幼児の見方・考え方を踏まえた指導 〔時間外学習〕幼児の体験や発達を理解するために必要な教師の視点をまとめてくる。
2	領域「環境」の指導方法と学習理論	領域「環境」の指導方法を学習理論から学ぶ。 〔時間外学習〕幼児教育で示されている学習理論を収集してくる。
3	幼児の認識・思考等を踏まえた「環境」の構想	幼児の認識・思考等を踏まえた「環境」での学びを検討する。 〔時間外学習〕保育「環境」の指導の事例についてまとめてくる。
4	指導案・日案の立案、環境構成と評価	指導案・日案の立案、環境構成、評価の考え方 〔時間外学習〕「環境」の学習指導案（日案）を収集してくる。
5	保育構想と教材・情報機器の活用①自然に触れる	自然の大きさ、美しさ、不思議さなどに気付かせる保育構想と実践（発表・討議） 〔時間外学習〕自然と触れ合う機会や体験を育む指導方法を収集してくる。（内容１）
6	保育構想と教材・情報機器の活用　②物に触れる	物の性質や仕組みに興味や関心をもたせ、大切にする気持ちを育む保育（発表・討議） 〔時間外学習〕物や道具に関って遊ぶ指導方法を収集してくる。（内容：２．７．８）
7	保育構想と教材・情報機器の活用　③自然や季節	季節による自然や人間生活の変化に気付かせる保育構想と実践（発表・討議）（3.4） 〔時間外学習〕自然とのかかわりや事象を取り入れて遊ぶ指導方法を収集してくる。
8	保育構想と教材・情報機器の活用　④生命の尊重	生命の尊さに気付き、いたわったり、大切にしたりする保育構想と実践（発表・討議） 〔時間外学習〕飼育・栽培等、生命を大切にする指導方法を収集してくる。（内容５）
9	保育構想と教材・情報機器の活用　⑤文化や伝統	様々な文化や伝統に親しみ、社会とのつながり等を持たせる保育構想と実践（発表・討議）〔時間外学習〕伝統的行事、わらべうた、遊び等の指導方法を収集してくる。内６
10	保育構想と教材・情報機器の活用　⑥数量や図形	数量や図形などに関心を持たせる保育構想と実践（発表・討議）　（内容９） 〔時間外学習〕数量や図形に興味・関心を持たせる指導方法を収集してくる。
11	保育構想と教材・情報機器の活用　⑦標識や文字	標識や文字などに対する興味や関心を持たせる保育構想と実践（発表・討議） 〔時間外学習〕標識や文字に興味・関心を持たせる指導方法を収集してくる。（内10）
12	保育構想と教材・情報機器の活用　⑧情報や施設	情報や施設などに興味や関心を持たせる保育構想と実践（発表・討議） 〔時間外学習〕情報や施設に興味・関心を持たせる指導方法を収集する。（内容：11）
13	保育構想と教材・情報機器の活用⑨国旗に親しむ	国旗に親しみ国際理解の意識の芽生えを育成する保育構想と実践（発表・討議） 〔時間外学習〕国旗に接する機会や方法を検討してくる。（内容：12）
14	領域「環境」の指導を改善する視点	模擬保育の振り返りと領域「環境」を改善する視点（グループワーク・討議） 〔時間外学習〕保育の場での事故、予防と対処法をまとめてくる。
15	保育実践の動向と保育構想	領域「環境」に関わる現代的課題や保育実践の動向と保育構想 〔時間外学習〕保育実践の課題や動向、保育構想についてまとめてくる。

《専門科目》

科目名	言葉領域指導法				
担当者氏名	中村　敏男				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　2-2 知識・技能 ○　3-3 汎用的技能				

《授業の概要》
幼児の言語発達の過程や特徴を理解し、自分なりの言葉で表現したり、相手の話す言葉を聞こうとしたりする幼児の意欲や態度を育てるための保育のあり方を学ぶ。また、手袋人形や絵本の製作、またそれらを使った発表学修を通して指導技術を身に付ける。その際、グループワークや発表学修を通して主体的な学びを深める。また、毎時間のはじめに絵本の読み聞かせ、手遊び等の発表学修を行い、互いに感想を交流して深め合う。

《授業の到達目標》
幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「言葉」のねらい、内容、全体構造を踏まえ、幼児が経験し身に付ける言葉の特性や内容、またそのための指導方法や指導上の留意点、評価方法を知り、具体的な題材を通して実践することができる。様々な題材を通して、幼児の言葉の成長を支えることの具体的なポイントを説明することができる。

《成績評価の方法》
作品提出及び発表70%、小レポート30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》
幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年告示）
「パネルシアター用Ｐペーパー並口」ひかりのくに

《参考図書》
必要に応じて授業の中で紹介する。

《授業時間外学習》
次の授業回で扱うテーマについて、幼稚園教育要領・保育所保育指針を精読した上で、文献・インターネット等を用いて製作物の素材を検索するなど、自己学習に努める。本授業では15時間の時間外学習が必要である。

《課題に対するフィードバック等》
小レポートは、コメントを付して返却し、全体で解説してフィードバックする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	紙芝居 （１）紙芝居の歴史	伝統文化の側面も含めた紙芝居の歴史を理解すること 〔時間外学習〕図書館で実際の紙芝居を手に取って、見ておくこと
2	紙芝居 （２）発表・振り返り	紙芝居の演じ方を工夫し、子どもの言葉の発達との関係について考えること（グループワーク）〔時間外学習〕グループで選んだ紙芝居作品の発表の練習をしておくこと
3	手袋人形シアター（1）製作の基本・構想	手袋人形の作り方、演じ方の基本について情報検索し、製作の構想を練ること 〔時間外学習〕動画サイトで手袋人形シアターについて調べておくこと
4	手袋人形シアター（2）製作	演じ方をイメージしながら、手袋人形を製作すること 〔時間外学習〕発表に向けて製作を進めておくこと
5	手袋人形シアター（3）発表・振り返り	互いに発表し合い、手袋人形シアターと幼児の言語発達について考えること（発表学修）〔時間外学習〕歌や言葉がけなどに注意しながら発表の練習をしておくこと
6	しかけ絵本・赤ちゃん絵本（1）素材調べ	しかけ絵本・赤ちゃん絵本について様々な情報を集め、製作の構想を練ること 〔時間外学習〕ロバート・サブタのしかけ絵本について調べておくこと
7	しかけ絵本・赤ちゃん絵本（2）製作	子どもの発達段階を意識した作品の製作を進めること 〔時間外学習〕製作に必要な材料・道具を準備しておくこと
8	しかけ絵本・赤ちゃん絵本（3）仕上げ・練習	絵本作品を完成させ、効果的な読み聞かせについて工夫すること 〔時間外学習〕しかけ絵本の発表に向けて作業・練習を進めておくこと
9	しかけ絵本・赤ちゃん絵本（4）発表・振り返り	製作した絵本を発表・鑑賞して、子どもの言葉の発達との関係について考えること（発表学修）〔時間外学習〕絵本を完成させて、発表の仕方を考え練習しておくこと
10	パネルシアター （1）しかけの理解	パネルシアターの様々なしかけを理解し、製作に向けた構想を練ること 〔時間外学習〕パネルシアターについて基本的な知識を調べておくこと
11	パネルシアター （2）製作	パネル絵の製作、発表に向けた練習 〔時間外学習〕演じてみたいパネルシアターの内容を考えておくこと
12	パネルシアター （3）発表・振り返り	パネルシアターを発表し合い、子どもの言葉の発達との関係について考えること（発表学修）〔時間外学習〕パネル絵を仕上げ、発表に向けて練習しておくこと
13	ペープサート （1）基本的技法の理解	ペープサートの基本的な知識について理解し、製作に向けた構想を練ること 〔時間外学習〕ペープサートについて基本的な知識を調べておくこと
14	ペープサート （2）製作	ペープサートパネルの製作、発表に向けた練習 〔時間外学習〕演じてみたいペープサートの内容を考えておくこと
15	ペープサート （3）発表・振り返り	ペープサートを発表し合い、子どもの言葉の発達との関係について考えること（発表学修）〔時間外学習〕ペープサートパネルを仕上げ、練習しておくこと

《専門科目》

科目名	乳児保育Ⅱ				
担当者氏名	小澤　美鈴				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　2-2 知識・技能 ○　3-3 汎用的技能 ○　4-4 態度・志向性 ○　5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》
現代の子育て世帯の抱える状況を考慮し、職員、保護者、地域、他機関　などとの連携の重要性を理解し、保育者に求められている様々な役割、3歳未満児の保育について、乳児保育Ⅰの内容を踏まえ、具体的な演習や事例検討をとおして実践的な理解を深め、自らの知識技術を修得する。

《授業の到達目標》
・3歳未満児の発育、発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本を理解し、説明することができる。
・養護と教育を踏まえた、3歳未満児の生活と遊び、保育の方法、環境について具体的に理解し、説明することができる。
・乳児保育における配慮の実際について、具体的な方法を理解し、説明、実践することができる。

《成績評価の方法》
課題への取り組み（20%）・中間課題（40%）・最終課題（40%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》
「乳児保育Ⅰ・Ⅱ」中央法規
志村聡子編著　「はじめて学ぶ 乳児保育」　同文書院
「保育所保育指針と解説書」

《参考図書》
「乳児の発達と保育」エイデル研究所
「保育を変える記録の書き方評価のしかた」今井和子　ひとなる書房

《授業時間外学習》
次回の授業内容を保育所保育指針、テキストの該当ページを精読し、文献やインターネット等を利用し、自己学習をする。専門用語については、参考書等を用いて事前調べを行う。教員からのフィードバックを基に、学習内容を振り返る。本授業では、15時間の時間外学習が必要である。

《課題に対するフィードバック等》
各回の学びについて共有し、前回の振り返りと受講者の学びの観点について確認とフィードバックを行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	乳児保育の基本	子どもと保育者との関係性の重要性、個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わりについて理解する〔時間外学習〕教科書第1講を読んでおくこと
2	0歳児クラスにおける生活と遊びの実際	0歳児クラスの生活の流れについて理解する 〔時間外学習〕教科書第1講を読んでおくこと
3	0歳児クラスにおける保育環境	0歳児クラスの保育環境について理解する 〔時間外学習〕教科書第2講を読んでおくこと
4	0歳児クラスの援助の実際（1）	0歳児クラスの援助の実際を理解する（おんぶ、だっこ、オムツ交換、衣服の着脱） 〔時間外学習〕教科書対象の内容を読んでおくこと
5	0歳児クラスの援助の実際（2）	0歳児クラスの援助の実際を理解する（調乳、授乳、離乳食） 〔時間外学習〕教科書対象内容を読んでおくこと
6	1歳児クラスにおける生活と遊びの実際	1歳児クラスの生活の流れ、保育環境について理解する 〔時間外学習〕教科書第5・6講を読んでおくこと
7	1歳児クラスの援助の実際	1歳児クラスの援助の実際を理解する 〔時間外学習〕教科書第7講を読んでおくこと
8	2歳児クラスにおける生活と遊びの実際	2歳児クラスの生活の流れ、保育環境について理解する 〔時間外学習〕教科書第8.9講を読んでおくこと
9	2歳児クラスの援助の実際	2歳児クラスの援助の実際を理解する 〔時間外学習〕教科書第10講を読んでおくこと
10	心身の健康、安全、情緒の安定を図るための配慮	子どもの心身の健康、安全、情緒の安定を図るための配慮を理解する 〔時間外学習〕教科書第11講を読んでおくこと
11	集団での生活における配慮	集団での生活における配慮について理解する 〔時間外学習〕教科書第12講を読んでおくこと
12	環境の変化や移行に対する配慮	各学年における進級時の環境の変化や移行に対する配慮について理解する 〔時間外学習〕教科書第13講を読んでおくこと
13	保育看護について	体調不良時の早期発見、対応の仕方、身体測定方法について理解する 〔時間外学習〕教科書対象内容を読んでおくこと
14	乳児保育における計画の実際	個別的な指導計画と集団の指導計画について理解する 〔時間外学習〕教科書第14.15講を読んでおくこと
15	家庭との連携	連絡帳の目的と書き方　連絡帳の記入 〔時間外学習〕教科書対象内容を読んでおくこと

《専門科目》

科目名	特別支援保育Ⅰ				
担当者氏名	東　敦子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　2-2 知識・技能 ○　4-4 態度・志向性 ○　5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》
保育の現場では、さまざまなニーズのある子どもたちへの理解に基づき、個々に応じた対応が求められている。本授業では、現在の特別支援保育に関する基礎的知識や技法を、具体的な事例をもとにしたエピソードを通して学ぶ。また、さまざまな子どもたちがともに学ぶための合理的配慮や、実際の現場で求められる家庭や関係機関との連携について学び、特別支援保育Ⅱでの具体的な保育展開力につなげる。

《授業の到達目標》
①障害児保育や特別支援保育についての理念から、保育者の役割について説明することができる。
②各障害の定義と特性について説明することができる。
③障害の特性に合わせた支援法や配慮，環境構成について論じることができる。
④家庭および関係者との連携の取り方について論ずることができる

《成績評価の方法》
授業の到達目標に基づき，課題等提出物20%，授業内の取り組み・発言等20%、定期試験60%で評価する。
総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》
●前田泰弘編著「実践に生かす障害児保育・特別支援教育」萌文書林,2019

《参考図書》
●「幼稚園教育要領　平成29年告示」フレーベル館
●「幼保連携型認定こども園教育・保育要領　平成29年告示」フレーベル館
●「保育所保育指針　平成29年告示」フレーベル館
●「特別支援学校幼稚部教育要領・小学部学習指導要領　平成29年4月告示」海文堂出版

《授業時間外学習》
授業計画に示した教科書の範囲に沿って、予習や復習に取り組んでください。また、インターネット記事や、TV・映画・書籍などを通して、特別なニーズのある子どもや家族の立場を理解したり、身近にどのような支援の場があるかなどについて調べたりすることで、自身の考察につなげるようにしましょう。（本授業では15時間の時間外学習が必要です。）

《課題に対するフィードバック等》
授業内の発表・発言に対してコメントでフィードバックします。提出課題については、全体で共有して、意見交換による学びを深めることがあります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	障害児保育・特別支援保育とは	「障害」とは何かについて学び、インクルージョン保育の理念について知る。 予習：教科書p12～22　復習：授業配布プリント
2	障害児保育・特別支援保育の基本	発達の見方と評価の方法について学ぶ。 予習：教科書p23～39　復習：授業配布プリント
3	知的障害と肢体不自由の理解と保育	知的障害・肢体不自由の理解と保育の実際について学ぶ。 予習：教科書p40～59　復習：授業配布プリント
4	聴覚障害・視覚障害・言語障害の理解と保育	聴覚障害・視覚障害・言語障害について学び、必要な配慮や支援を知る。 予習：教科書p60～76　復習：授業配布プリント
5	自閉症スペクトラム障害の理解と保育	自閉症スペクトラム障害について学び、必要な配慮や支援を知る。 予習：教科書p77～95　復習：授業配布プリント
6	学習障害・注意欠如/多動性障害の理解と保育	学習障害と注意欠如/多動性障害について学び、必要な配慮や支援を知る。 予習：教科書p96～105　復習：授業配布プリント
7	多様な支援を必要とする子どもの理解と保育	多様なニーズのある子どもの理解について学び、必要な配慮や支援を知る。 予習：教科書p106～115　復習：授業配布プリント
8	子ども理解に基づく計画の作成と記録	保育の計画、個別の指導計画の作成や評価の仕方についてまなぶ。 予習：教科書p116～130　復習：授業配布プリント
9	発達を促す生活や遊びの環境	自発性を促す環境と保育者の援助の方法について学ぶ。 予習：教科書p131～142　復習：授業配布プリント
10	他者とのかかわりと育ちあい	集団保育のなかで個別の配慮の方法について知る。 予習：教科書p143～154　復習：授業配布プリント
11	職員間の協力関係	園内の職員間での協力の方法や情報共有の方法について学ぶ。 予習：教科書p155～167　復習：授業配布プリント
12	家庭や関係機関との連携	保護者や関係機関との連携による支援の実際について学ぶ。 予習：教科書168～181　復習：授業配布プリント
13	障害のある子の早期発見と支援	健康診査制度や発達相談と療育資源について理解する。 予習：教科書p182～193　復習：授業配布プリント
14	就学に向けての支援	障害のある子どもの就学先の理解や就学相談の実際について知る。 予習：教科書p194～207　復習：授業配布プリント
15	障害のある子の保育にかかわる現状と課題	医療・保健の現状と専門機関との連携による福祉・教育支援について学ぶ。 予習：教科書208～220　復習：授業配布プリント

《専門科目》

科目名	保育のピアノ基礎Ⅱ				
担当者氏名	越智　光輝、山田　真澄、平峯　章生、渡邉　公実子、肱岡　龍耶				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-1 教養 ◎　2-2 知識・技能 ○　5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》
幼稚園、保育所、認定こども園といった保育の現場での、ピアノを用いた音楽を伴う表現活動を実践できる人材となるために、個人レッスンによる指導を中心に、ピアノ曲(バイエル、ブルグミュラー、ソナチネ、ソナタ)と童謡(子どもの歌)の弾き歌いの発表について、隔週で交互に取り組む。

《授業の到達目標》
保育の現場で求められる鍵盤楽器演奏能力における基礎技能を身につけることで、
・合格基準にもとづいて童謡の弾き歌いを6曲以上習得することができる。
・参考図書①～③より指定された1曲のピアノ曲を最後まで演奏できる。

《成績評価の方法》
ピアノ実技成果発表45%、童謡の弾き歌いの合格数55%で総合的に評価し、60%以上を合格とする。

《テキスト》
越智光輝　「子どもとうたおう　ピアノでド・レ・ミ！　レベルにあわせて楽しく弾ける50曲」
三恵社

《参考図書》
（1）進捗状況に応じて次の①～③より各自で用意する。課題曲は、レッスンカードを参照すること。
　①全訳バイエル　全音楽譜出版社
　②ブルクミュラー25練習曲　全音楽譜出版社
　③ソナチネアルバムⅠ巻 全音楽譜出版社
（2）入学前教育及び授業内で配布されたプリント

《授業時間外学習》
授業（個人レッスン）は練習の場ではなく、事前・事後学習で見つかった課題を解決する場と捉え、教員から提示された次回の授業までの課題曲を、自己学習しておく。（本授業では15時間の時間外学修が必要です。）

《課題に対するフィードバック等》
隔週で実施する童謡の弾き歌い発表及び13週目もしくは14週目に実施するピアノ実技成果発表について、実施後に改善点に関するフィードバックを行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:前期15週目に提示された童謡の弾き歌い発表、3・4班:前期15週目に提示されたピアノ曲及び2週目で発表する童謡［時間外学習］次回にむけての練習（1時間）
2	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:前期15週目に提示されたピアノ曲及び3週目で発表する童謡、3・4班:1週目に決定した童謡の弾き歌い発表［時間外学習］次回にむけての練習（1時間）
3	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:2週目に取り組んだ童謡の弾き歌い発表、3・4班:1週目に決定したピアノ曲及び4週目で発表する童謡［時間外学習］次回にむけての練習（1時間）
4	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:2週目に提示されたピアノ曲、5週目で発表する童謡、3・4班:3週目に取り組んだ童謡の弾き歌い発表［時間外学習］次回にむけての練習（1時間）
5	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:4週目に取り組んだ童謡の弾き歌い発表、3・4班:3週目に提示されたピアノ曲及び6週目で発表する童謡［時間外学習］次回にむけての練習（1時間）
6	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:4週目に提示されたピアノ曲、7週目で発表する童謡、3・4班:5週目に取り組んだ童謡の弾き歌い発表［時間外学習］次回にむけての練習（1時間）
7	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:6週目に取り組んだ童謡の弾き歌い発表、3・4班:5週目に提示されたピアノ曲、8週目で発表する童謡［時間外学習］次回にむけての練習（1時間）
8	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:6週目に提示されたピアノ曲、9週目で発表する童謡、3・4班:7週目に取り組んだ童謡の弾き歌い発表［時間外学習］次回にむけての練習（1時間）
9	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:8週目に取り組んだ童謡の弾き歌い発表、3・4班:7週目に提示されたピアノ曲、10週目で発表する童謡［時間外学習］次回にむけての練習（1時間）
10	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:8週目に提示されたピアノ曲、11週目で発表する童謡、3・4班:9週目に取り組んだ童謡の弾き歌い発表［時間外学習］次回にむけての練習（1時間）
11	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:10週目に取り組んだ童謡の弾き歌い発表、3・4班:9週目に提示されたピアノ曲、12週目で発表する童謡［時間外学習］次回にむけての練習（1時間）
12	童謡伴奏またはピアノ曲の習得	1・2班:10週目に提示されたピアノ曲、15週目で発表する童謡、3・4班:11週目に取り組んだ童謡の弾き歌い発表［時間外学習］次回にむけての練習（1時間）
13	ピアノ実技成果発表、童謡伴奏・ピアノ曲の習得	1・2班:ピアノ曲の演奏及び演奏の振り返り3・4班:11週目に提示されたピアノ曲、15週目で発表する童謡［時間外学習］次回にむけての練習（1時間）
14	ピアノ実技成果発表、童謡伴奏の習得	1・2班:15週目で発表する童謡、3・4班:ピアノ曲の演奏及び演奏の振り返り［時間外学習］次回にむけての練習（1時間）
15	童謡伴奏の習得、2年次における学び	童謡の弾き歌い発表、2年次での学修計画［時間外学習］発表にむけての練習（1時間）

《専門科目》

科目名	保育実習指導Ⅰ				
担当者氏名	伊東　一誉、東　敦子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　2-2 知識・技能 ○　4-4 態度・志向性				

《授業の概要》
「保育実習Ⅰ」における豊かな学びと自己課題の明確化のために、以下のことについて中心的に学ぶ。
①「保育実習Ⅰ」の意義・目的・内容の理解
②「保育実習Ⅰ」を円滑に進めるための知識・技術を習得と事前準備についての学習
③実習後の学びの振り返りと学習課題の明確化
また、グループワークや簡単な制作活動も行う。

《授業の到達目標》
①「保育実習Ⅰ」の意義・目的・内容について説明することができる。
②創造的表現力、問題解決能力等、保育士として乳幼児と関わる上で必要な技能を身に付ける。
③子どもやその家族を支援する専門職の責務について説明することができる。

《成績評価の方法》
授業ごとの提出課題・小テスト70%、最終レポート40%で総合的に評価し、60%以上を合格とする。

《テキスト》
小櫃智子編著『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』2017,わかば社、『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』2015,わかば社

《参考図書》
汐見稔幸『保育所保育指針ハンドブック2017年告示版』学研,2017
汐見稔幸『平成29年度保育所保育指針まるわかりガイド』チャイルド本社,2017
岸井慶子監修『3つのカベをのりこえる！保育実習リアルガイド』学研

《授業時間外学習》
名札・自己紹介グッズの作成や絵本・紙芝居、素話の練習など、保育実習にかかわる活動を自己学習の中で行う。
また、教材研究、指導案の作成を行う。
自己学習として１５時間以上を要する。

《課題に対するフィードバック等》
「保育実習Ⅰ」を履修するためには本授業を履修する必要がある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	実習の概要 保育実習Ⅰの目的	①保育実習指導の授業の進め方の確認 ②保育実習（保育所）の概要、目的、目標についての学習（ワークシート）
2	実習に向けての心構え・ 実習課題の明確化	①保育士としての心構え・実習生として学ぶ姿勢 ②幼稚園実習を振り返りと保育実習での実習課題作成（ワークシート）
3	オリエンテーションの心構え・書類作成、	①オリエンテーションの電話のかけ方、オリエンテーションの受け方の注意の確認 ②誓約書・実習生調書の作成（ワークシート）
4	保育所保育指針について 日誌の概要の書き方	①背景と趣旨、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）についての学習 ②園の概要や環境構成の書き方（ワークシート）
5	０歳児の発達と援助 名前の絵本の作り方	①一対一関係の大切さ、安心・安全・愛情についての学習 ②名前の絵本制作（グループワーク・制作）
6	１歳児の発達と援助 指導案とは	①探索活動が活発になる時期の自発的な発見や行動への共感についての学習 ①子どもの発達や一人ひとりの興味関心に合わせた指導案作成（ディスカッション）
7	２歳児の発達と援助 主活動とは	①自我の芽生えの時期における保育者のかかわりについての学習 ②主活動の考え方（導入⇒展開⇒まとめ）（グループワーク）
8	３歳児の発達と援助 部分実習指導案の書き方	①興味のある遊びの発見や他者とのかかわりを求める時期のかかわりについての学習 ②主活動のねらいと内容、時系列に沿った指導案の立案（ワークシート）
9	４歳児の発達と援助 環境構成について	①生活の中にある発見と挑戦の連続から自制心を育成する時期についての学習 ②指導案に沿った環境構成の考察（ディスカッション）
10	５歳児の発達と援助	①他者との関わりの広がりと社会性の構築時期についての学習 ②１～５歳児における指導案の比較とまとめ（ワークシート）
11	日誌の書き方	①乳児クラスの一日の流れ（体験学習） ②時間・環境構成・子どもの活動・保育者の援助についての学習（ワークシート）
12	エピソード記録・考察について	①子どもの生活や遊びの実際（体験学習） ②子どもと保育者の両視点を捉える見方についての学習（グループワーク）
13	実習直前指導（提出物について）	①細菌検査についての学習 ②お礼状の書き方等、実習後の提出物についての確認（ワークシート）
14	提出物を見直す （指導案・一日の流れ）	①返却された指導案・一日の流れの見直し ②自己の課題や不明点の明確化（ディスカッション・ワークシート）
15	今後の実習課題の明確化	①保育実習Ⅰの振り返り ②本授業のまとめと今後の実習課題の明確化

《専門科目》

科目名	保育実習指導Ⅰ				
担当者氏名	伊東　一誉、東　敦子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　2-2 知識・技能 ◎　4-4 態度・志向性				

《授業の概要》
保育士の職域は広がっており、児童福祉施設や障害者支援施設等における専門職としての活躍が求められる。本授業では，保育実習Ⅰ（施設）に向け，その意義や目的を理解し，実習遂行のための基礎的な知識・技術について学ぶ。また，地域連携のために必要な情報収集の方法などについても学ぶ。実習終了後の振り返りにおいて、今後の学修課題を明確化する。

《授業の到達目標》
①施設の役割・機能を具体的に説明することができる。
②個別の支援計画の意義を理解しそれを論ずることができる。
③一人一人の状態に応じた関わりや支援の在り方を理解し，検討することができる。
④施設保育士としての自らの実践の課題を明確にし，述べることができる。

《成績評価の方法》
実習前試験60%，グループワーク・発表20%，実習書類・ワークシート20%で評価する。
総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》
①大豆生田啓友他編「これからの時代の保育者養成・実習うガイド」中央法規,2020　　※東担当クラス
②「実習の手引き」国際学院埼玉短期大学幼児保育学科

《参考図書》
●全国保育士会編「全国保育士会倫理綱領ガイドブック」全国社会福祉協議会,2018

《授業時間外学習》
保育実習Ⅰ（施設）履修が必須です。
実習までに，これまでに学んだ科目を振り返るとともに、実習先についての情報を調べるなどして、丁寧に把握するようにしてください。実習が終了した後に、振り返りシートや自己評価票を作成し，2年次の実習に向けての準備をしてください（授業時間外学習時間は30時間です）。

《課題に対するフィードバック等》
現場では施設内・外の様々な職種、関係者との連携が必須です。ワークではメンバー間での意見交換のスキルや実習に取り組む姿などを評価し、適宜コメントします。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	実習の意義と目的	保育実習Ⅰ（施設）の意義と目的，実習全体のプロセス 予習②を読んでおく・復習：教科書と授業配布プリント
2	各施設の把握	養護系・障害系・育成系各施設名と対象児・者の理解 予習・復習：教科書と授業配布プリント
3	養護系施設の役割と概要	養護系施設（児童養護施設，乳児院，母子生活支援施設，児童相談所一時保護施設）の法的位置づけとその役割　予習・復習：教科書と授業配布プリント
4	障害系施設の役割と概要	障害系施設（障害児入所施設，児童発達支援センター，障害者支援施設）の法的位置づけとその役割　予習・復習：教科書と授業配布プリント
5	育成系施設の役割と概要	育成系施設（児童厚生施設，児童自立支援施設，児童心理治療施設）の法的位置づけとその役割　予習・復習：教科書と授業配布プリント
6	養護系施設の日課と特質	養護系施設（児童養護施設，乳児院，母子生活支援施設，児童相談所一時保護施設）の一日の流れと施設の特質　予習・復習：教科書と授業配布プリント
7	障害系施設の日課と特質	障害系施設（障害児入所施設，児童発達支援センター）の一日の流れと施設の特質 予習・復習：教科書と授業配布プリント
8	成人施設等の日課と特質	障害系施設（障害者支援施設，障害福祉サービス事業所）の一日の流れと施設の特質 予習・復習：教科書と授業配布プリント
9	育成系施設の日課と特質	育成系施設（児童厚生施設，児童自立支援施設，児童心理治療施設）の一日の流れと施設の特質　予習・復習：教科書と授業配布プリント
10	実習関係書類の作成について	実習における実習施設や大学へ提出する書類の作成方法の学修 予習：教科書　復習：実習書類下書き作成
11	実習日誌の目的と作成方法	施設における日誌の特徴，観察実習における作成方法，部分実習・責任実習における計画案の作成方法　予習・復習：教科書と授業配布プリント
12	実習日誌の作成	映像視聴による観察記録作成 予習・復習：教科書と授業配布プリント
13	実習前試験・確認	施設における実習に関する知識，実習後の施設への提出物と提出・受取方法，大学への提出物，お礼状の書き方　予：既習事項の振り返り　復：試験結果の振り返り
14	実習の総括と自己評価	実習先評価や実習日誌・自己評価から見る自己課題の明確化：今後の学修計画の検討 予習：実習日誌・自己評価の振り返り　復習：自己課題の明文化
15	実習報告会	実習施設の概要や機能・役割，施設保育士の業務内容とその役割，実習総括と自己評価のまとめと発表　予習：自己課題の明文化資料　復習：既習事項の振り返り

《専門科目》

科目名	保育実習Ⅰ（保育所）				
担当者氏名	伊東　一誉				
授業方法	実習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　2-2 知識・技能 ○　4-4 態度・志向性				

《授業の概要》
保育所における実践活動への参加を通じた豊かな学びと自己課題の明確化のために、以下のことについて学ぶ。
①保育の現場を通じた乳幼児の理解
②保育所の機能やそこで働く保育士の職務に関する学習
③日常の生活や遊びの経験による、保育に必要な知識と技能の習得

《授業の到達目標》
①コミュニケーション能力、創造的表現力、論理的思考力、問題解決能力、保育技術など、保育士として必要な技能を身につけて表現することができる。
②保育に関する基本的知識について説明することができる。
③保育の現場にかかわる安全及び健康への配慮や倫理的配慮に関して説明することができる。

《成績評価の方法》
実習先の評価25%、実習日誌50%、提出物25%で総合的に評価し、60%以上を合格とする。

《テキスト》
必要に応じて資料を配布する。

《参考図書》
汐見稔幸『保育所保育指針ハンドブック2017年告示版』学研,2017
汐見稔幸『平成29年度保育所保育指針まるわかりガイド』チャイルド本社,2017

《授業時間外学習》
名札・自己紹介グッズの作成や絵本・紙芝居、素話の練習など、保育の現場にかかわる活動を自己学習の中で行う。
また、教材研究と指導案の作成を行う。

《課題に対するフィードバック等》
専門科目の単位取得状況、保育実習指導Ⅰ（保育所）評価結果により、校外実習への参加の是非を決定する。保育所での実習は、1年次に10日間行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保育所理解	①保育所における実習の目的と内容についての学習 ②実習施設の特徴と役割についての理解
2	デイリープログラム	①保育所の状況と実習園についての理解 ②保育の現場における１日の流れについての学習
3	発達過程	①乳幼児の発達の理解 ②発達過程に沿った生活の実際についての学習
4	乳幼児理解	①乳幼児の生活を通した保育者の関わりについての理解 ②生活や遊びへの参加を通した保育の実際についての学習
5	保育技術の習得	①乳幼児の遊びにかかわる保育技術（絵本の読み聞かせ、指遊びなど） ②生活における保育技術（言葉かけ、環境設定、時間配分など）
6	保育課程	①保育課程の意義 ②保育の実態の理解（体験学習）
7	指導計画の概要	①指導計画の理解 ②指導計画の事例研究（グループワーク）
8	指導計画立案	①部分実習における指導計画立案 ②指導計画の確認（プレゼンテーション）
9	協働	①職員間の役割分担とチームワークの理解 ②組織的に行われる保育の実際についての学習
10	家庭・地域社会との連携	①保育の現場における記録の目的と方法についての学習 ②保護者とのコミュニケーションに対する理解
11	保育方法	①保育所保育指針にみる「子どもの最善の利益」についての理解 ②「子どもの最善の利益」を具現化する取り組みについての学習
12	倫理観	①保育士の倫理観の理解 ②保育の現場における事例の研究（グループワーク）
13	安全・健康	①安全・安心、健康的な環境づくり、疾病予防への配慮についての理解 ②日常環境の安全点検についての理解（グループワーク）
14	部分実習	①部分実習の内容と実際についての理解 ②立案した指導計画に基づいた保育活動の学習
15	実習の振り返り・今後の課題	①実習（保育所）における評価結果についての振り返り ②実習経験の総括

《専門科目》

科目名	保育実習Ⅰ（施設）				
担当者氏名	東　敦子				
授業方法	実習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　2-2 知識・技能 ○　4-4 態度・志向性 ◎　5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》
保育士の職域は広がっており、保育所以外の養護系や障害系育成系などの施設などにおいての活躍が期待されている。本実習では，それぞれの施設の役割・機能，利用・児者の置かれた状況などについて学ぶとともに、具体的な支援についての計画を作成したり，関係機関との連携の方法などについてグループワークなどで学びを深める。

《授業の到達目標》
①施設の役割・機能について，体験を基に具体的な説明ができる。
②実際の支援から一人一人の支援計画を理解・把握することができる。
③一人一人の状態を踏まえた支援を考え実践できる。
④実習における観察・記録・省察を通して施設保育における実践を改善することができる。

《成績評価の方法》
実習施設による評価50%，実習後の提出物の状況・実習への参加状況・実習日誌の記述内容（上記到達科目を観点とする）50%とする。
総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》
●大豆生田啓友他編「これからの時代の保育者養成・実習うガイド」中央法規,2020
●「実習の手引き」国際学院埼玉短期大学幼児保育学科

《参考図書》
●全国保育士会編「全国保育士会倫理綱領ガイドブック」全国社会福祉協議会,2018

《授業時間外学習》
保育実習指導Ⅰ（施設）履修が必須です。実習までに，これまでに学修した科目を振り返るようにしてください。振り返りシートや自己評価票作成を各自で行い，2年次実習に向けて準備を進めてください。地域連携のための学びとして、実習先の地域の関係機関などの情報を調査するなども積極的に行ってください。

《課題に対するフィードバック等》
振り返りシートや自己評価票を実習先の評価と比較して，今後の学修に役立てます。実習中は訪問担当教員から実習内容についてフィードバックしていきます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	施設実習	居住型施設・通所型施設等における実習の実施
2	施設の一日の流れの理解	施設での生活、一日の流れ（生活の流れやプログラム・活動の流れ）について実践を通して理解する
3	施設の役割・機能の理解	実習での具体的取り組みを通して、実習施設の役割は何か、どのような機能を有しているのかについて理解する
4	観察と記録を通した利用児・者の理解	実習施設の利用児・者の観察と記録を通して、実際のくらしや活動といった実態を把握し、将来を見据えた支援について考察を深める
5	個々の状態に応じた支援	実習施設の利用児・者との関わりと支援を通して、それぞれの施設の役割・機能、個々の対象に対する支援方法や技術について理解を深める
6	計画に基づく活動や援助・支援	実習施設の理念・目的、個々の支援計画に基づく活動や援助・支援がどのように実践されているのかを理解し、自らもその活動・支援を実行して理解を深める
7	利用児・者の心身の状態に応じた対応	日々の生活を通して健康状態や心理状態、疾病の状態は変化する。そのような状態に応じて施設職員はどのように関わっているのかを理解し、自らも実践する
8	利用児・者の活動と生活の環境	実習施設の利用児・者の活動・生活環境はどのような目的で構成・構築されているか、実践を通して理解する
9	健康管理・安全対策の理解	実習施設において、利用児・者及び職員の健康管理や安全対策はどのように実行されているか、職員との関わりや聞き取り等によって理解し、実践する
10	支援計画の理解と活用	個人情報の取り扱いについて十分配慮されたうえで、利用児・者の状態と（個別）支援計画について理解し、どのように支援計画が活用されているかを実践を通して理解する
11	記録に基づく省察・自己評価	実習日誌へ日々記録していくなかで、自らの関わりや考えを言語化し整理することを通して、実習施設及び利用児・者への理解を深めることや支援の改善に努める
12	保育士・生活支援員の業務内容の理解	実習施設における保育士及び生活支援員等はどのような役割・業務内容を担っているか、観察や実践を通して理解する
13	職員間の役割分担と連携についての理解	様々な専門職が配置されている施設において、各職員がどのような役割を担い、また利用児・者のためにどのような連携が行われているかを実習を通して理解を深める
14	保育士の役割と職業倫理についての考察	施設実習を通して、社会福祉領域の専門職である「保育士」の役割とは、職業倫理とは何か、具体的な説明を試みる
15	施設実習の振り返りと自己課題の明確化	実習施設での観察・実践、実習日誌への記録による振り返りを通して、保育士としての自己評価及び今後の新たな課題について明確にする

《専門科目》

科目名	教育実習Ⅰ				
担当者氏名	桐原　由美				
授業方法	実習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　3-3 汎用的技能 ○　4-4 態度・志向性 ◎　5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》
幼稚園における5日間の教育実習（観察・参加実習）であり、幼稚園教諭二種免許状を取得するにあたり不可欠となるものである。保育活動に参加しながら幼児の活動や教員の実践を観察し、幼稚園における1日の保育の流れ、幼児の活動と生活、保育環境の在り方を学ぶとともに、幼稚園教諭の仕事内容を知る。将来教諭となるべく必要な知識を体験的に学ぶ。

《授業の到達目標》
幼稚園教育について実践的な理解を深めることができる。
幼児の発達段階ごとの活動の実態や興味関心について幼児との関わりや観察・参加を通して学ぶことができる。
幼児に接しその成長の援助を行うことに喜びを感じ、誠意をもって実習に取り組むことができる。

《成績評価の方法》
実習日誌50%、実習先評価40%、提出物10%で総合的に評価し、60%以上を合格とする。

《テキスト》
〇幼稚園教育要領および同解説 〇小櫃智子他編著「実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド」わかば社　2015 〇実習の手引き（国際学院埼玉短期大学幼児保育学科）

《参考図書》
〇「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」および同解説
〇大豆生田啓友他「これからの時代の保育者養成・実習ガイド」中央法規 2020
〇植田光子「手あそび百科」ひかりのくに 2006
〇無藤隆「幼稚園教育要領ハンドブック」学研 2017

《授業時間外学習》
〇実習生として求められる最低限の社会的良識を備えておく。
〇絵本読み、手遊びなどの基礎を学んでおく。〇実習園にてオリエンテーションを実施し、その記録をまとめておく。 〇当日の実習日誌を記録し、次の日の課題を把握する。
〇その他、教育実習指導Ⅰの講義内容を再確認し、事前準備を十分に行うこと。

《課題に対するフィードバック等》
実習日誌等の提出物は内容を確認した上で受領、返却を行う。
実習園からの指導について適時フィードバックを行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	5日間の観察・参加実習	保育に参加しながら①幼稚園の流れを理解する、②子どもの行動を理解し関わり方について学ぶ、③幼稚園の役割や教師の役割・職務について学ぶ。実習日誌を作成する。
2	-	-
3	-	-
4	-	-
5	-	-
6	-	-
7	-	-
8	-	-
9	-	-
10	-	-
11	-	-
12	-	-
13	-	-
14	-	-
15	-	-

《専門科目》

科目名	造形表現領域指導法				
担当者氏名	伊東　一誉				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-1 教養 ○　3-3 汎用的技能 ◎　4-4 態度・志向性				

《授業の概要》
「保育の造形Ⅰ」で学んだ知識と技能を基に、子どもの豊かな表現を育成する造形活動の実践を、以下を中心に学ぶ。
①乳幼児の発達段階、季節、行事を考慮した造形活動について
②造形活動の目的と内容に応じた指導案の作成について
③保育の現場を想定した具体的な指導技術について
また、制作活動のほかに発表やグループ学習を行う。

《授業の到達目標》
①乳幼児の発達段階に適した造形活動の内容を理解し説明することができる。
②保育の現場（対象年齢、環境、季節、行事などの諸要素）を考慮した造形活動を提案することができる。
③指導者の立場で活動の内容を計画し説明することができる。
④模擬保育での実践において、援助を工夫することができる。

《成績評価の方法》
授業ごとの提出課題・小テスト60%、最終レポート40%を総合的に評価し、60%以上を合格とする。

《テキスト》
必要に応じて資料を配布する。

《参考図書》
宮地明子著『12か月の製作あそびアイデアBook』ナツメ社
町田里美著『０・１・２歳児のかんたん製作あそび12か月』ナツメ社槇英子
槇英子『保育をひらく造形表現〈第２版〉』萌文書林,2018

《授業時間外学習》
授業内で配する資料や参考図書等から、レポート内容の検討や教材研究・事前準備を行うこと。
また授業時間内において完成できなかった作品等については、提示した期日までに自己学習の中で完成させ、提出すること。
(本授業では22時間程度の授業時間外学習が必要。)

《課題に対するフィードバック等》
授業内における制作、小テスト、最終レポートを作成する課題を課す（授業内において、適宜、講評する）。
また、図工セットなど制作に必要なものを毎回持参すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	造形活動の意義と位置づけ	「幼稚園教育要領」及び「保育所保育指針」における造形表現の意義や位置づけの学習と制作の事例（ワークシート・グループ学習）
2	造形活動の指導① （声かけ・対応）	①造形活動事例の実践（制作・グループ学習） ②指導における声かけと多様な事例に対する対応（ワークシート）
3	造形活動の指導案作成①	①造形活動事例の実践（制作） ②指導案作成（ワークシート・プレゼンテーション）
4	造形活動事例① （９～１０月の制作）	①９～１０月の時期の造形活動事例の学習（ワークシート） ②主題に応じた制作（例：運動会、月見、敬老の日など）
5	造形活動事例② （１０～１１月の制作）	①１０～１１月の時期の造形活動事例の学習（ワークシート） ②主題に応じた制作（例：ハロウィン、芋掘り、遠足、読書など）
6	造形活動の指導と応用① （保護者への対応）	①造形活動事例の実践（制作） ②子どもの活動と保護者への対応（グループディスカッション・発表）
7	造形活動の指導② （手順・説明）	①造形活動事例の実践（制作・グループ学習） ②指導における手順と説明における工夫（ワークシート）
8	造形活動の指導案作成②	①造形活動事例の実践（制作） ②指導案作成（ワークシート・プレゼンテーション）
9	造形活動事例③ （１２～１月の制作）	①１２～１月の時期の造形活動事例の学習（ワークシート） ②主題に応じた制作（例：クリスマス、大晦日、年賀状、干支など）
10	造形活動事例④ （１～２月の制作）	①１～２月の時期の造形活動事例の学習（ワークシート） ②主題に応じた制作（例：書初め、節分、雪、梅など）
11	造形活動の指導と応用② （障害児への対応）	①障害児に対する造形活動事例の実践（制作） ②多様な子どもに対する対応の検討（グループディスカッション・発表）
12	造形活動事例⑤ （２～３月の制作）	①２～３月の時期の造形活動事例の学習（ワークシート） ②主題に応じた制作（例：バレンタインデー、ひな祭り、卒園式など）
13	造形活動の指導③ （準備と片付け）	①造形活動事例の実践（制作・グループ活動） ②指導における準備と片付けに関する工夫（ワークシート）
14	模擬保育を想定した指導案の作成	①第13回までの内容を見直し、各自の意欲と関心に即した計画の検討（ワークシート） ②模擬保育を想定した指導案を各自作成する。
15	指導案の製本と本授業の学習に対する振り返り	①各自提出した指導案の製本作業・講評（制作・プレゼンテーション） ②本授業における学習の振り返りとまとめ（ワークシート）